

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3972600047
法人名	社会福祉法人 西土佐福祉会
事業所名	グループホーム にしとさ
所在地	〒787-1603 高知県四万十市西土佐用井1110-39
自己評価作成日	平成22年1月4日
評価結果市町村受理日	平成22年5月25日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3972600047&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>田舎ならではの自然に恵まれた環境を活かして、野菜や花を育てたり、鶏を飼育して、収穫した新鮮な素材を使い、利用者と一緒に食事作りを楽しみ、1年を通じて季節を感じながら、明るく、楽しく、穏やかで生きがいのある日々を過ごしていただけるような取り組みをしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、豊かな自然に囲まれた環境の中にあり、利用者はこれまでの経験や知識を活かして野菜を栽培したり、鶏を飼育している。また、散歩や商店、農協の販売店に買物に出かけ、馴染みの方と談笑するなど、これまでの家庭生活の延長の中で過ごしている。職員は、和気あいあいとした中でも、「見守る」「一呼吸待つ」「寄り添う」などの利用者本位の支援を徹底しており、日中のケアに際して見守り担当を配置し、利用者同士の関係を維持したり、孤立しないよう支援できる体制をとっている。また、法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンターなどが併設されており、全体の催しを通じて地域住民と交流したり、地域の防災協力員との連携など、地域密着型サービスとしての確かな基盤が窺われる事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室やタイムレコーダーのそばに理念を貼り、また、職員会で理念に沿ったサービス内容であるかを振り返り、理念の共有と意識付けを行い、ケアに繋げている。	事業所独自の理念を掲げ、日常的に目に触れやすい場所に掲示するとともに、毎月の職員会等で意識付けをしている。実践場面においては、随時話し合い、職員はリードし過ぎることなく、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し地域で開催されている行事に参加したり、買い物などに出かけ、地域の方と会話している。また、地域の方からの差し入れも日常的にあり、近くの中学校や高校生とも交流している。	地域活動の情報を集め、祭り、運動会、ふれあいホールや母体法人での催し物等に参加している。また、散歩や商店、農協の販売店での買い物等、日常的に地域との交流の機会を多く持ち、地域の一員としての暮らしを構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生と一般住民を対象とした2級ヘルパー養成講座で認知症について講義している。また地域の方から認知症介護の相談を受け、アドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の生活状況や活動状況、外部評価結果などの報告を行うとともに、出席者から意見をいただき、出た意見については職員会等で話し合ながらサービス向上に努めている。	事業所からの報告だけでなく参加者からの意見や要望も受け、会議の目的に沿って運営している。出された意見は職員間で共有し、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>毎月2回開催されている担当者会議で事業所の実情やケアサービスの取組み等を報告し、助言をいただいている。また、介護認定の調査の際や誕生会などに市の職員も参加していただき、利用者の生活ぶりや問題点を伝え連携を深めている。</p>	<p>運営推進会議や認定調査時、また、誕生会や新年会等の行事の時などに、折に触れ市の担当者と交流を図っており、協力関係が維持できるよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について職員勉強会を開いたり、外部研修に参加した職員からの伝達研修などにより職員の意識付けを行っている。利用者が外に出た時は引き止めないで落ち着くまで職員と一緒に歩いている。食事や移動手手段以外は車いすやテーブルは使用せず自由に動けるように配慮している。</p>	<p>職員は、身体拘束の内容と弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。また、日中は玄関に鍵をかけず、リスクについてもその都度家族と話し合い、外出傾向のある利用者には、常に目配りし職員間で連携したり、地域住民の見守りなどで支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての事業所で勉強会を開いたり、外部研修に参加した職員からの伝達研修を行い、職員へ周知している。また、虐待を発見したときは速やかに通報の義務があることも伝えている。職員のストレスが溜まらないよう職員との交流の場をもったり責任者との面談を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職場内研修で権利擁護に関する研修を行い、職員の理解を深めるようにしている。現在1名の利用者が権利擁護を利用されており、職員にも説明している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をとって契約書と照らし合わせながら、納得いただくように丁寧に説明している。重度化した際でも事業所として対応出来ることについて説明し、その都度話合を持ちながら最善を尽くすことを伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には普段から意見や要望が言いやすいような雰囲気づくりに心がけ、その都度職員間で情報を共有し対処している。家族等には面会時や定期的に電話をするなどして意見や要望を伺い、職員会等で話合い、改善に取り組んでいる。相談窓口についても説明している。	利用者との日々の関わりのなかで、意向等を把握するとともに、家族の面会時や電話連絡の際に意見等を聞いている。家族会は年に2回開催されているが、参加者が少なく意見もほとんど出ていない。	家族が忌憚なく意見を出せるよう、家族との支え合いの協力体制も含め、家族会への参加要請や機会づくりなど、側面的なサポートについて検討することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で提案や意見を求めている。また代表者との面談も行っている。出された意見は可能な限り反映させる努力をしている。	職員会では、職員から具体的な事例を挙げて意見が出されるなど、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気作りを行い、できることから運営に反映させ、職員の意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与表の統一や処遇改善手当の支給、休憩室の確保など、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。また、代表者との個人面談や臨時・パート職員も含めた法人内の他の部署との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修への参加や研修報告の場を設けている。ヘルパー養成講座の講師派遣や自己研鑽、資格取得に向けて学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が幡多地区の会に参加しネットワークづくりが始動している。また、認知症キャラバンメイトの意見交換会にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームの見学をしていたり、ご本人に面談し、要望や不安について、ゆっくり聞き、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にホームの見学をしていたり、これまでのサービス利用状況やご家族の要望等を聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前や開始時点で、必要な支援を見極め、必要に応じて地域包括支援センターやケアマネジャー等に相談しながら、他のサービス機関に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、職員と一緒に洗濯干しや炊事等できることをしていただきながら家族としての役割をもっていただくようにしている。野菜づくりや食事づくりなどで利用者から教えてもらえるような工夫や声かけに配慮している。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日々の様子や出来事など家族の面会時や電話などでお知らせし相談もしている。外泊や外出時の家族の気づきも教えていただき、家族と情報共有しながら本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>出身地のお祭りや墓参り、初詣などに出かけ、知人や身内の方との交流を継続している。また、スーパーや農協に出かけ、馴染みの知人に会ったり、知人が面会にきてくれるなど、交流がある。また、行きつけの美容院にも行っている。</p>	<p>外出先で知人と会ったり、知人の訪問を受けている。また、馴染みの美容院に行ったり、ドライブの時に元の職場に寄り、利用者から思い出話を聞くなど、地域での暮らしの継続支援を目指して積極的に取り組んでいる。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中は1名の職員を見守りできる場所に配置し、利用者が孤立しないように見守っている。気の合う利用者同士が隣合うように席を配慮したり、おやつ時や食事を利用者と一緒に行きながら会話を多く持つようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方を利用者と一緒に会いに行っている。他の施設などに移る際は関係者にこれまでのケアの工夫や本人の状況等詳しく伝え、その後も必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で希望や意向を随時聞いている。また、意思表示の困難な方は表情や仕草から読み取ったり、家族から情報を得るなどして本人本位の暮らしを継続で来るよう努めている。	職員は、利用者が主体的に話す会話の中や、意思表示が困難な利用者の場合は利用者と向き合った時のまなざしや表情の中から気持ちを汲み取り、本人の意向や希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴、暮らし方などプライバシーに配慮しながら情報を収集している。また、担当者会などからも情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムをつかみ、行動や心理面からその人の全体像を把握し、本人の出来ることを見つけ出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	利用者との関わりのなかで思いや意見を聞き、家族には面会時や定期的に電話をかけるなどして意見や要望を聞き計画に反映させている。毎月全職員でカンファレンスを行い、職員の意見やアイデアを反映しながら介護計画を作成している。	利用者、家族の意見や要望を聞き取り、職員の気づきや介護記録も踏まえ、介護計画を作成している。評価は毎月行い、利用者の状況に応じて随時見直している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別に日々の生活状況や状態の変化、気づきなどを記録している。また、毎日実施状況のチェックを行い、勤務開始前の確認を義務づけている。日々の実践やケアプラン検討会やカンファレンス時の計画の見直しに活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	本人や家族の状況に応じて市外地域への通院や送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	訪問美容の利用や、食品や果物などの移動販売、近くの銀行から本人の希望する時に来てもらうなど、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医であり、また受診や通院は希望に応じ、状態に応じて対応している。他の医療機関への受診も家族が行けない時は職員が代行している。受診結果は家族に報告している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。家族が通院介助する場合は、日頃の利用者の様子を伝えるようにしているが、職員が家族に代って支援する場合もある。受診結果は、家族から連絡をもらい事業所で共有し、必要に応じて家族に連絡している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。法人内にある特養の看護師に気軽に相談し、利用者が適切な看護や受診を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際には本人の支援方法などの情報を提供している。出来るだけ早期に退院できるよう家族やドクターに相談している。また、職員が見舞に行き、病院関係者と情報の交換や相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に伴って、事業所が対応できる内容についてその都度説明している。状態の変化がある度に随時本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や地域の関係者と相談しながら取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期の意向については契約時に説明している。利用者の状況変化に応じて段階的に話し合って意向を確認し、サービス担当者会議でチームケアにつなげているが、一部契約時の説明後に意思確認ができていないケースがある。</p>	<p>契約時の説明後に意思確認が出来ていない利用者についても意向を確認し、早い段階から方針を共有して支援に取り組むことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に適切な対応ができるよう消防署の協力を得て研修を行っている。また、職員がパニックにならないよう、管理者からも指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力にて避難、通報訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。地区の防災協力員にも訓練への参加を呼び掛けている。	地区の防災協力員の参加を得て、夜間の火災や地震を想定した避難訓練等を実施している。非常食の準備もしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時の声かけやさり気ないケアなど、利用者の誇りを傷つけないよう心掛けている。また、守秘義務について職員に徹底している。	利用者の尊厳を保ち、日々のケアに取り組むことを職員に徹底し、トイレ誘導などの声かけはプライバシーや誇りを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が日常生活のなかで決定できるよう支援している。意思表示ができない方でも表情や反応を見極め、注意深くキャッチしながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴など、大体の時間は決まっているが体調やその時の本人の気持ちを大切に、柔軟に対応している。外出時間なども自由にしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選んでもらい、馴染みの理美容院でカットや髪染めをしている。また、状況に応じて訪問美容を利用するなど、身だしなみやお洒落ができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大体の献立は決まっているが、利用者と一緒に買い物をしたり、収穫した野菜を使ったメニューを考えたりしている。利用者も食事作りや配膳を行い、職員も一緒に食卓を囲んで同じものを食べている。	盛り付けや配膳は4～5名の利用者がテーブルを囲み、互いに助け合いながら行っている。笑い声や会話が絶えない和やかな雰囲気の中で食事をしており、職員もさりげなく介助しながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、摂取量が少ない方は、好みの食べ物や飲み物を提供したり、調理方法を工夫するなどして、目標量を確保するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしており、自力で出来る利用者は見守り、困難な利用者には状況に応じて介助している。外出後は必ずうがいを励行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のない方については排泄チェック表を活用しながら排泄誘導を行っている。失禁のある方はその人の行動や表情を観察しながらさりげない声かけや誘導を行い、個人に応じた紙おむつを使用している。	昼夜2時間ごとの排泄援助をしており、おむつ使用者はいない。失禁量に応じた排泄用品を使用し、見直しを適宜行いながら、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使った献立や毎朝の味噌汁にヨーグルトを入れている。また、水分の補給や散歩、運動を働きかけるなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一般的には午後入浴を行っているが、希望者や外出される方は午前中も行っている。マンツーマンでゆっくり入浴していただいている。拒否のある方は時間や声かけの仕方を工夫している。	利用者の希望に沿って毎日入浴出来るようにしている。午後の時間帯を基本としているが、希望等に応じて午前中も入浴支援をしている。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを見計らって支援しているが、状況に応じて足浴や清拭なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方はなるべく日中の活動をすすめている。眠れないような時は職員がそばで付き添ったり、一緒にお茶を飲みながら話をするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に処方箋や薬の説明書を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。新しく処方されたり変更時は随時申し送りノートで共有し、服薬時は本人に手渡し飲み込みを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の趣味、生活歴等を考慮しながら状態等に合わせ、外出、野菜づくり、花の世話、作品づくり、調理などそれぞれ得意なことをしていただき、感謝のことばや意欲の出る言葉かけを行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の状態に合わせて散歩、ドライブ、買い物などに出かけている。年1～2回は利用者の希望を聞き遠足を行っている。家族や知人などの協力も得て外食をしている利用者もいる。</p>	<p>買い物には4～5名の利用者が毎日交代で行き、近くの診療所受診時にも散歩を兼ねて寄り道するなど、日常的に外出支援を行っている。車いす利用の方も、最低でも週1回は外出できるように取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て自分でお金を所持し自由に使っている利用者もいる。家族から預かっている方も外出した際は自分で支払できるよう見守っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を持ち自由に使っている方もいる。状況に応じて職員が介助しながら電話で話せるよう支援している。また、職員が手紙の代筆するなどの支援もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>できるだけ家庭と同じような居住になるよう馴染みのもの、季節感あるものを取り入れるようにしている。</p>	<p>家庭的な雰囲気を作るため、昔ながらの茶箆筥や木の丸椅子などを共用空間に配置し、菓箱や竹かごを置いたり、シクラメンの鉢植えや雛祭りの人形など季節感に配慮したものも採り入れるなど、居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやイス、ダイニングテーブルの配置に配慮、し落ち着いて過ごせるペースづくりに取り組んでいる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持参された品々、馴染みの物や写真等、生活スタイルに合わせてそれぞれ居心地のよさに配慮している。</p>	<p>ダンス、テレビ、写真等馴染みの物を配置し、また、利用者の中には趣味で栽培している花の鉢植えを置くなど、居心地良く暮らせるように個別に工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部には可能な限り手すりを取り付け、物の配置に配慮し、居室が分からない方には目印になるものを取り付けている。</p>		

V アウトカム項目		
項目	該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11. 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない